

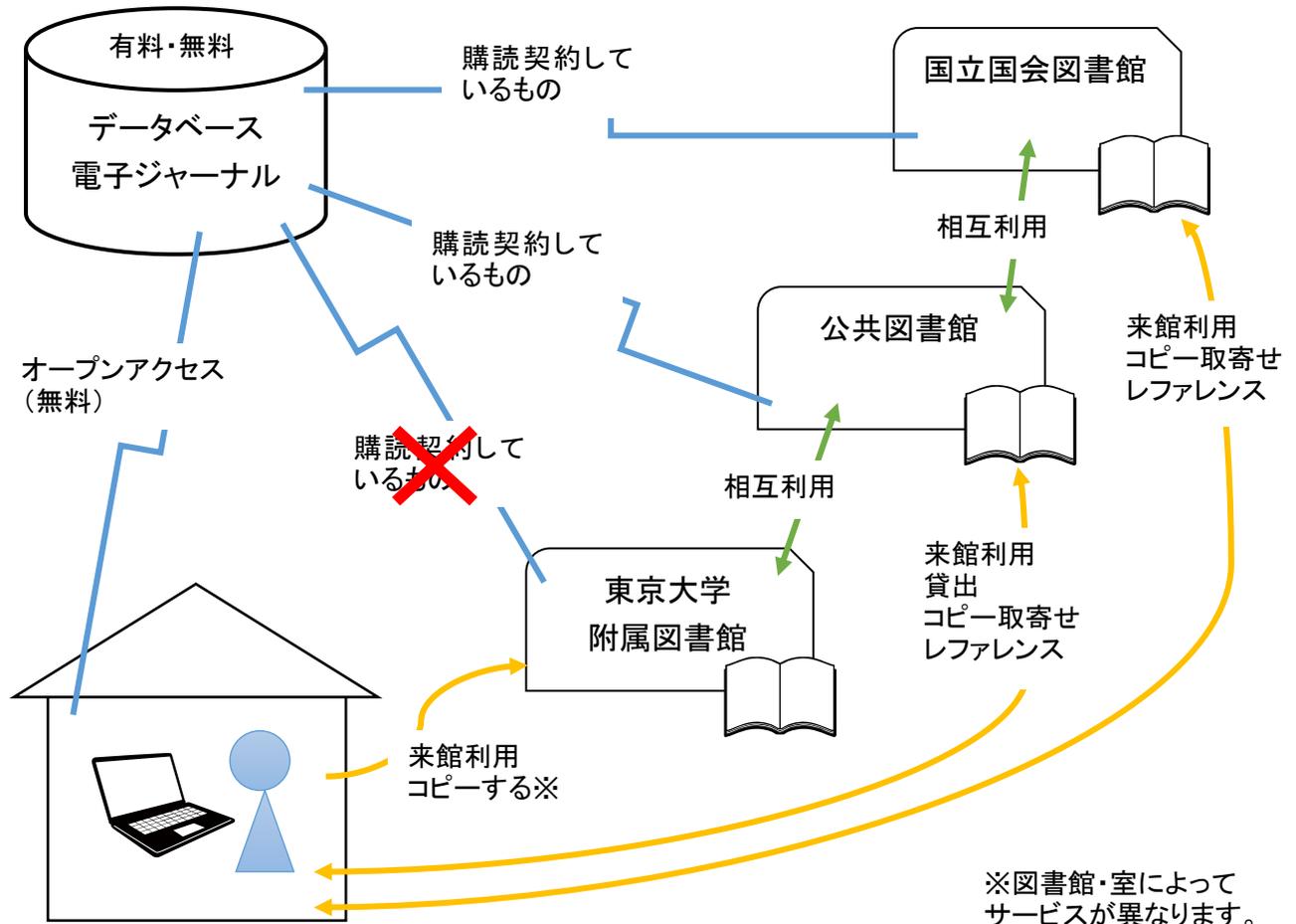
# 卒業・離職してからの文献検索・文献管理

## ■テキスト内容

- 【1】 データベース・電子ジャーナルへのアクセス方法
- 【2】 オンラインで論文・資料を探す
- 【3】 図書館の利用について
- 【4】 文献管理ツールについて
- 【5】 その他

東大で使えるデータベースや電子ジャーナルの多くは、大学が契約しているため東大所属者のみ利用可能です。卒業・離職等で東京大学を離れると、東大が契約しているデータベース・電子ジャーナルは利用できなくなりますが、所属に関わらず利用できるものも様々ありますのでご紹介します。

東京大学在籍中	卒業・離職後
東京大学が有料で契約しているデータベース・電子ジャーナル Web of Science、IEEE、日経テレコンなど	利用できない
誰でも無料で利用できるデータベース・電子ジャーナル	利用できる



この資料に関するお問合せ: 東京大学本部情報基盤課 [学術情報リテラシー担当]  
メール: [literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

## 【1】 データベース・電子ジャーナルへのアクセス方法

東京大学附属図書館  
データベース一覧<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/database>

- ◆データベース一覧へはどこからでもアクセスできます。
- ◆「Open」を指定して検索すると、どこからでも利用可能なデータベースの一覧が表示されます。

東京大学附属図書館

図書館一覧 東京大学OPAC ASK Literacy システム障害 日本語 English

ホーム ニュース イベント **データベース一覧** コレクション 図書館概要 お問い合わせ サイト内検索 検索

## データベース一覧

東京大学所属者が利用できるデータベースを検索可能です。「On-Campus Only」は学内からのみ利用可能、「Open」は公開、「Off-Campus」は学外からも利用可能なデータベースです。利用ボタンとの対応は[こちら](#)をご参照ください。電子ジャーナル・電子ブックをご利用の方は[こちら](#)をご参照ください。

459 件中の 1 件目～ 40 件目を表示

検索キーワード

キーワード (2文字以上で入力)

資料タイプ 主題分野 言語 全文へのアクセス エリア

- すべて - - すべて - - すべて - - すべて - - すべて -

1ページの表示件数

40

Off-Campus  
On-Campus Only  
**Open**

「Open」は、一般公開されているデータベースで、誰でもどこからでも利用できるもの。

※「Off-Campus」は東京大学所属者がキャンパスの外から使うことができるデータベースの一覧です。

CiNii Research

Off-Campus **Open**

**利用する** ~~利用する (EZproxy)~~

CiNiiが提供している論文(CiNii Articles)や書誌(CiNii Books), 博士論文(CiNii Dissertations)の情報を一括して検索できます。また、研究データや研究プロジェクト情報も検索対象としています。

引用、被引用のデータ付与が、再開されています。付与率は論文全体の1.4%程度(2023年2月時点。国立情報学研究所の回答による)となっています。( [https://support.nii.ac.jp/ja/cir/manual\\_articles\\_result](https://support.nii.ac.jp/ja/cir/manual_articles_result) のC-4参照)

● ● ● マニュアル ● ● ●

提供元 国立情報学研究所：NII  
全文へのアクセス 可能  
資料タイプ 本  
雑誌論文・雑誌記事  
学位論文  
主題分野 総合分野  
言語 日本語、欧米言語

「Open」のアイコンがあるデータベースは、「利用する」ボタンをクリックすると、学外から利用できます。

「利用する(EZproxy)」のボタンは、東京大学所属者がキャンパスの外から利用する際のもので、卒業・離職後は利用できません。

## 【2】 オンラインで論文・資料を探す

無料で公開されているデータベースや電子ジャーナルは、東京大学を離れても利用できます。電子ジャーナルも「オープンアクセス」になっている論文が増えており、分野によっては無料で見られる論文がたくさんあります。

オープンアクセス: 論文などをインターネット上で無料公開し、誰でもフリーにアクセスできるようにすること。

主に、学術雑誌にオープンアクセス論文として掲載するパターンと、機関リポジトリに著者最終稿などを掲載するパターンがあります。

機関リポジトリ: 大学などの研究機関が自機関の研究成果を公開するサイト。

### 無料公開のデータベース、電子ジャーナル (各サイトはデータベース一覧から利用可能)

#### 論文の情報を入手するサイト(データベース・検索エンジン)の例

全文の入手はサイト内ではできない場合が多く、情報についているリンク等をたどって探す。

あるいは、掲載誌がオープンアクセスジャーナルかどうか、紙の資料を所蔵している場所があるか、などを別途探す。

#### ■ CiNii Research (全分野)

日本国内発行の大学紀要や学会誌に掲載された論文等を検索できる。本文へのリンクあり。

#### ■ PubMed (医学・生命科学分野)

世界の主要医学系雑誌等に掲載された論文を検索できる。本文へのリンクあり。

#### ■ ERIC (教育分野)

雑誌論文・政策文書・会議資料・カリキュラムガイド等を検索できる。本文ファイルあり。

#### ■ AGRICOLA (農業分野)

雑誌論文・特許情報・技術報告書等を検索できる。本文へのリンクあり。

#### ■ zbMATH Open (数学分野)

雑誌論文・書籍等を検索でき、多くは抄録・レビューが付与されている。本文へのリンクあり。

#### ■ Google Scholar (全分野)

学術文献を幅広く検索できる。検索対象は、分野や発行元を問わず、雑誌論文・プレプリント・書籍・裁判での司法意見等、さまざまな学術資料とされている。本文へのリンクあり。

#### ○ 違法アップロードに注意！

Web 検索で見つかる情報の中には、本来有料の論文を出版社等の許可なく違法アップロードしている場合があります。大規模な海賊版論文サイトも存在します。違法アップロードはダウンロードした側も違法となりますので、正規の方法で資料を入手してください。

正規に公開された論文を見つけるためのツールとして、unpaywall・EndNote Click といったブラウザ用アドオンもあります。

unpaywall <https://unpaywall.org/>

EndNote Click <https://kopernio.com/>

## 論文の本文を入手するサイト(オープンアクセスジャーナル)の例

全ての掲載論文がオープンアクセスとなっている雑誌、一部の掲載論文のみオープンアクセスとなっている雑誌、など、ジャーナルによりオープンアクセスの範囲は異なります。

### ■J-STAGE (全分野)

日本国内で発行された学協会誌の電子ジャーナル公開プラットフォーム。「フリー」「オープンアクセス」のアイコンが付いているものは無料公開。

### ■Public Library of Science (PLOS) (医学・自然科学分野)

査読付きオープンアクセスジャーナルを発行する出版社サイト。

### ■BMC (生物・医学分野)

査読付きオープンアクセスジャーナルを発行する出版社サイト。

### ■PubMed Central (PMC) (医学・生命科学分野)

米国国立医学図書館(NLM)傘下の国立生物工学情報センター(NCBI)が運営するオープンアクセス論文アーカイブ。収録されている論文は、PubMedでも検索できます。

### ■Directory of Open Access Journals (DOAJ) (全分野)

オープンアクセスジャーナルのリンク集。査読が行われているかなどを審査し、信頼できる雑誌のみ掲載されている。

### ■学会誌の場合、学会のウェブサイトで独自に公開されていることもある。

#### ○ハゲタカジャーナル(predatory journal)に注意！

ハゲタカジャーナルとは、オープンアクセスの出版モデルを悪用した雑誌です。著者から出版投稿料(APC)を得ることを目的として、適切な査読が行われず論文の質が保証されていないことが多いです。

良質な学術誌を装い著者に投稿させるために、有名なジャーナルと酷似した名称を使用したり、ダミーの掲載論文に勝手に実在の研究者の名前を使用していた事例もあります。

投稿時だけでなく論文を読んだり引用する際にも、チェックリスト(Think Check Submit)などを利用してジャーナルの信頼性を確認するようにしましょう。

Think Check Submit <http://thinkchecksubmit.org/translations/japanese/>

## プレプリント・サーバーの例

プレプリント: 査読を受ける前の論文のこと。研究成果の迅速な公開などの利点から、プレプリントの公開に積極的な分野もあります。

### ■arXiv.org

<https://arxiv.org/>

物理学、数学、コンピュータサイエンス、定量生物学、金融工学、統計学、電気工学・システム科学、経済学分野のプレプリントが収録されているオープンアクセスのアーカイブ。

### ■Jxiv

<https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv>

日本で初めての本格的なプレプリント・サーバー。自然科学・人文科学・社会科学、学際科学を含むすべての研究分野のプレプリントを、日本語あるいは英語で投稿・公開できます。

その他

■東京大学学術機関リポジトリ(UTokyo Repository): 東京大学の研究成果(論文等)を公開  
博士論文、学術論文、各研究科等で刊行する研究紀要など、さまざまな学術成果を電子的に公開しています。

■東京大学デジタルアーカイブポータル: 東京大学のデジタル化された各種コレクションを横断検索  
「画像があるアイテムだけ」「画像やメタデータを自由利用できるアイテムだけ」などの絞り込み検索も可能。

■JAPAN SEARCH: 日本国内の幅広い分野のデジタルアーカイブを横断検索  
コンテンツの分野は、書籍・公文書・文化財・美術・人文学・自然史/理工学・学術資産・放送番組・映画など。各コンテンツの詳細ページで、利用する際の条件も明記されています。

■国立国会図書館デジタルコレクション: 国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧可能  
資料の権利状況に応じて、以下 3 つのいずれかの方法で閲覧できます。

A. インターネット公開 → ログイン無しで閲覧可能

B. 国立国会図書館内/図書館・個人送信 → 送信サービスに登録していれば閲覧可能。

送信サービスは現在 2 種類

○図書館送信サービス: 図書館が登録して提供。多くの公共図書館も登録しています。

○個人向けデジタル化資料送信サービス: 個人で登録し、自身の端末で閲覧可能。

C. 国立国会図書館限定 → 国立国会図書館の館内(東京本館、関西館、国際子ども図書館)のみで閲覧可能。

■政府統計の総合窓口 (e-Stat): 日本の政府統計

統計データそのものだけでなく、主要な統計データをグラフや時系列順に表示したり、統計データを地図上に重ねて表示し地理的な分析ができる機能なども提供されています。

■白書や報告書の場合、各省庁や機関のウェブサイトで独自に公開されていることもあります。

### 有料の個人向けサービス

多くの電子ジャーナル公開サイトでは、PPV(Pay per view、ペーパービュー)により、特定の論文 1 本や図書の章単位で購入ができます。

■JapanKnowledge Personal

<https://japanknowledge.com/personal/>

国内発行の 80 以上の辞書・事典・叢書などを利用できるデータベース。有料で個人契約が可能。

※大学で契約している JapanKnowledge Lib とは一部収録コンテンツが異なります。

■医中誌パーソナル Web

[https://www.jamas.or.jp/service/ichu\\_p/fee.html](https://www.jamas.or.jp/service/ichu_p/fee.html)

国内で発行された医学系論文の情報を検索可能。本文はこのデータベース内では入手できません。有料で個人契約が可能。

■JSTOR

<https://www.jstor.org/>

人文科学・社会科学を中心とする代表的な学術雑誌のバックナンバーを集積したデータベース。個人アカウントを作成し、30 日ごとに最大 100 件の記事を無料で閲覧することができます。

無料で閲覧する方法

<https://support.jstor.org/hc/en-us/articles/360000585347-How-to-Use-Your-Free-Reads-with-a-Personal-Account>

アカウント作成方法

<https://support.jstor.org/hc/en-us/articles/115004760028-How-to-register-get-free-access-to-content>

### 【3】 図書館の利用について

オンラインで資料が入手できなくても、お近くの図書館を活用してみましょう。  
必ず、ご利用前にウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。

#### 東京大学附属図書館の利用

東京大学の学部を卒業された方・大学院を修了された方は、「東京大学附属図書館入館証」を作成することができます。

【東京大学附属図書館 卒業生の方へ】

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/contact/alumni>

電子ジャーナルやデータベース、Wi-Fi 等の利用や文献取り寄せはできません。

利用条件や手続きは、図書館・室によって異なります。各図書館・室のウェブサイトでご確認ください。

総合図書館の例 【利用案内 卒業生・修了生の方へ】

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/alumni-content>

教員・職員だった方は、所属部局によって対応が異なります。ご所属の部局の図書館へお問い合わせください(本部所属の方は総合図書館へお問い合わせください)。

総合図書館の例 【利用案内 元教員・元職員の方へ】

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/former-facultyorstaff>

■東京大学 OPAC: 東京大学附属図書館の蔵書目録

[https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/opac\\_search/](https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/opac_search/)

※卒業・離職後は、MyOPAC サービスは利用できません。

来館して資料を利用する場合は、図書館ごとに利用の時間や利用手続き等が異なります。あらかじめ目的の資料の所蔵館を OPAC で確認し、所蔵する図書館に連絡のうえご来館ください。

#### 次の所属機関の図書館の利用

他の研究機関へ進学・就職する方は、通常、その機関の図書館でレファレンスや文献取寄せ等のサービスが受けられます。サービス内容は機関により異なります。進学・就職後の所属機関へお問合せください。

#### 公共図書館の利用

居住地や勤務先の自治体の公共図書館(都立、県立、区立、市立など)を利用することができます。

市区町村立図書館と都道府県立図書館では、資料収集の方針やサービス傾向に違いがありますので、ご自身のニーズに合わせてご利用ください。

○資料の貸出だけでなく、データベースを利用できたり、レファレンス、文献取寄せといったサービスを受けられます。また、「ビジネス支援」の視点から資料を集めたり講習会を行う公共図書館も増えています。

○公共図書館へ依頼して、大学図書館や他の公共図書館から文献を取寄せることが可能です。

○大学図書館(特に私立)はほとんどが学外者へのサービスをおこなっていませんが、地域で相互利用協定を結んでおり利用できる場合があります。

詳細は各図書館へお問合せください。

蔵書は各図書館の OPAC 等で検索できます。

■カーリル: 国内の公共図書館・大学図書館の蔵書情報と貸出状況をまとめて検索可能

<https://calil.jp/>

■東京都立図書館: 画面右側に、都内図書館の統合検索

<https://www.library.metro.tokyo.jp/>

■日本図書館協会の図書館リンク集: 公立図書館・私立図書館等のリンク

<https://www.jla.or.jp/link/tabid/95/Default.aspx>

## 専門図書館の利用

専門図書館では、特定分野の専門的な資料が収集されています。設置元は企業・民間団体・研究機関などさまざまですが、一般の利用に対応している図書館も多くあります。

(参考) 専門図書館協議会 <https://jsla.or.jp/>

■ dlib.jp(ディープ・ライブラリープロジェクト): 約 160 館の国内の専門図書館の資料を、キーワードで検索可能  
<https://dlib.jp/>

■ 専門図書館ガイド: 約 450 館の都内及び近県にある専門図書館等を検索可能 (東京都立図書館提供)  
<https://senmonlib.metro.tokyo.lg.jp/>

## 国立国会図書館の利用

満 18 歳以上の人は誰でも利用でき、公共図書館や大学図書館を経由してのサービスも行っています。

「登録利用者制度」によって、個人で「遠隔複写サービス」等のサービスを利用することもできます。

館内で利用できるデータベース・電子ジャーナル等もあります。

【利用者登録について】 <https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html>

【遠隔複写サービス】 <https://www.ndl.go.jp/jp/copy/remote/index.html>

【東京本館 電子情報提供サービス】 <https://www.ndl.go.jp/jp/tokyo/database/index.html>

■ 国立国会図書館サーチ(NDL サーチ): 国立国会図書館の蔵書目録

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

資料の検索のほか、遠隔複写サービスの申込みなども行えます。

国立国会図書館とデータ連携している全国の図書館の所蔵資料も検索できます。

■ リサーチ・ナビ: 調べ方案内

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi>

調査のポイントや参考になる資料・便利なデータベース・使える Web サイト・関係する機関など、調べものに役立つ情報を、特定のテーマ・資料群別に紹介しています。

## 海外の図書館の利用

クレジットカード払いで文献取寄せができるサイトもあります。また、デジタル化された資料を閲覧できる場合もあります。

■ The British Library: 英国図書館

<https://www.bl.uk/>

※個人での文献取寄せ申込みが可能でしたが、2023 年 10 月に発生したサイバー攻撃による大規模障害が発生しており、サービス停止中です。(2025 年 2 月確認)

■ Library of Congress Online Catalog: アメリカ議会図書館蔵書目録

<https://catalog.loc.gov/>

個人での文献取寄せ申込みが可能。(参考)<https://www.loc.gov/duplicationservices/>

■ Library Hub Discover: 英国とアイルランドの主要な図書館(国立図書館・大学図書館・専門研究図書館)の横断検索が可能

<https://discover.libraryhub.jisc.ac.uk/>

■ Karlsruher Virtueller Katalog (KVK): ドイツ語圏(ドイツ、スイス、オーストリア)の総合目録

<https://kvk.bibliothek.kit.edu/>

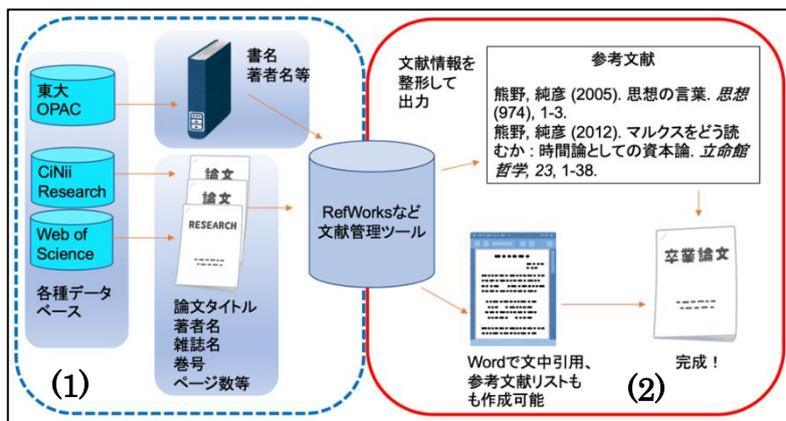
欧米の国立図書館や書店カタログなども検索できます。

■ WorldCat: 北米を中心とした世界の図書館の横断検索 ※東京大学 OPAC でもタブを切り替えて検索できます。

<https://www.worldcat.org/>

## 【4】 文献管理ツールについて

文献管理ツールとは、(1)データベースから文献情報を取り込み(手元の資料の情報を直接入力も可能)、フォルダ分けやタグ付けなどの管理をすることができるツールです。(2)参考文献リストの自動作成も行えます。



文献管理ツールには無料で利用できるものもありますが、東京大学所属者の方は RefWorks、Mendeley、EndNote online を機関契約で利用可能です。卒業後の使い方はそれぞれ異なります。

Literacy サイト> 文献管理ツール <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/literacy/user-guide/campus/ref>

### RefWorks

卒業・離職後も在籍中と同じ機能を利用可能

<https://refworks.proquest.com/>

東京大学が RefWorks を契約している期間は、卒業・離職後も在籍中と同じサービスをご利用いただけます。**在籍中にアカウントを作成する必要があります(東大発行のメールアドレスが必要)。**

(参考) アカウント作成方法

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/literacy/user-guide/campus/ref/refworks#user>

卒業・離職直前に、RefWorks ログイン後の設定画面から、役職を「Alumni」(卒業生)に、電子メールを卒業・離職後に使用するメールアドレスに変更してください。

○RefWorks、Mendeley、EndNote online は「RIS 形式」で相互にデータ移行が可能です。

### ■ RefWorks データの保存、他の文献管理ツールへのデータ移行方法

書誌情報をまとめてダウンロードできます。ただし、PDF などの添付ファイルは一緒にダウンロードされません。添付ファイルは、「添付ファイルのエクスポート」などを使用して別途ダウンロードしてください。

- ① 上メニューの「共有」⇒「参考文献をエクスポート」をクリック。
- ② フォーマットを選択して、「エクスポート」ボタンをクリック。
- ③ データ移行先の文献管理ツールでインポート作業を行う。

### 【添付ファイルのエクスポート】

- ① 上メニューの「共有」⇒「添付ファイルのエクスポート」をクリック。
- ② 出力範囲を選択して、「エクスポート」ボタンをクリック。
- ③ エクスポートが完了すると、RefWorks に登録しているメールアドレスにダウンロードリンクが届く。リンクをクリックすると、ZIP ファイルがダウンロードされる。

## ■他の文献管理ツールから RefWorks へのデータ移行方法

Mendeley から RefWorks へのインポート時(Import from Mendeley ボタン使用)のみ、書誌情報と添付ファイルを一括でインポートすることができます。その他の場合、添付ファイルの一括インポート機能はありません。レコードをインポートした後、個別にファイルを添付してください。

- ① 上メニューの「追加」⇒「レコードのインポート」をクリック。
- ② 他の文献管理ツールからエクスポートしたファイルを取込む。

### **Mendeley**

卒業・離職後は無料版に切り替え（卒業・離職後に新規に無料アカウントを作成することも可能）

<https://www.mendeley.com/>

東大の機関契約版は、最後に学内からアクセスしてから 1 年後に、自動的に無料版に切り替わります。無料版になると、保存できるデータの容量は 100G から 2G に、プライベートグループの作成は 100 人までのグループ数 1000 から、25 人までのグループ数 5 に減ります。無料版に切り替わる前に、保存しているデータやプライベートグループを整理してください。

クレジットカード払いの個人有料版もあるので、そちらに移行することも可能です。

個人有料版 <https://www.mendeley.com/settings/upgrade/>（Mendely にログインをしてご確認ください）

### **EndNote basic**

卒業・離職後は無料版に切り替え（卒業・離職後に新規に無料アカウントを作成することも可能）

<https://www.myendnoteweb.com/>

東大の機関契約版(EndNote online)は、最後に学内からアクセスしてから 1 年後に、自動的に無料版(EndNote basic)に切り替わります。

無料版になると、引用文献リスト作成時に使えるリストの書式の種類が 4200 種以上から 21 種に減ります。その他の違いについては、下記ページ内の「機能比較表」を参照ください。（東大の機関契約版は、「機能比較表」中では「WoS 導入機関向け EndNote Online」に該当します。）

ユサコ社解説ページ [https://www.usaco.co.jp/endnote/endnote\\_web.html](https://www.usaco.co.jp/endnote/endnote_web.html)

個人で購入できる有料版もあります（「機能比較表」の「デスクトップ版」が該当商品）。

ユサコ社 EndNote 特設サイト <https://www.usaco.co.jp/endnote/>

## 【5】 その他

■ Literacy サイト内に、このテキストと同内容のページがあります。

Literacy サイト > 利用案内 > これから卒業などで東大を離れる方へ

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/literacy/user-guide/graduate/alumni>

■ 学生の皆さんは卒業式・修了式の日学生証を返却することになるので、それまでに貸出や複写の利用をしてください。

■ 返却を忘れていた資料がないか、MyOPAC の貸出・予約状況のページを確認してください。